



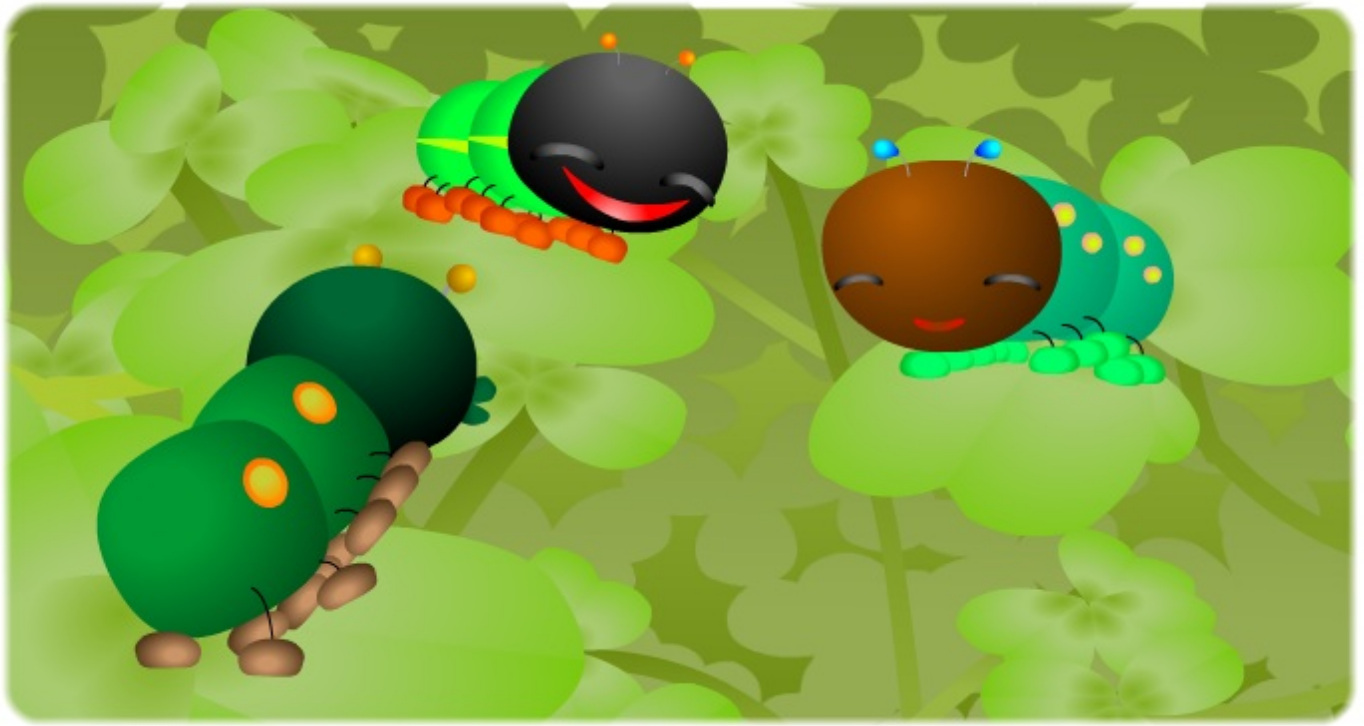
ちょうちよに  
ならなかつた  
いもむし





「ねえー、ねえー、  
きょうは、なにをして あそぶ？」

「きのうは、かくれんぼ したから  
きょうは、おにごっこ しよう！」



「さんせい！

やろう！やろう！」

いもむしのゴローくん、ボブくん、カイくんの3人は  
大の なかよしです。



「キャハハ、までー！」

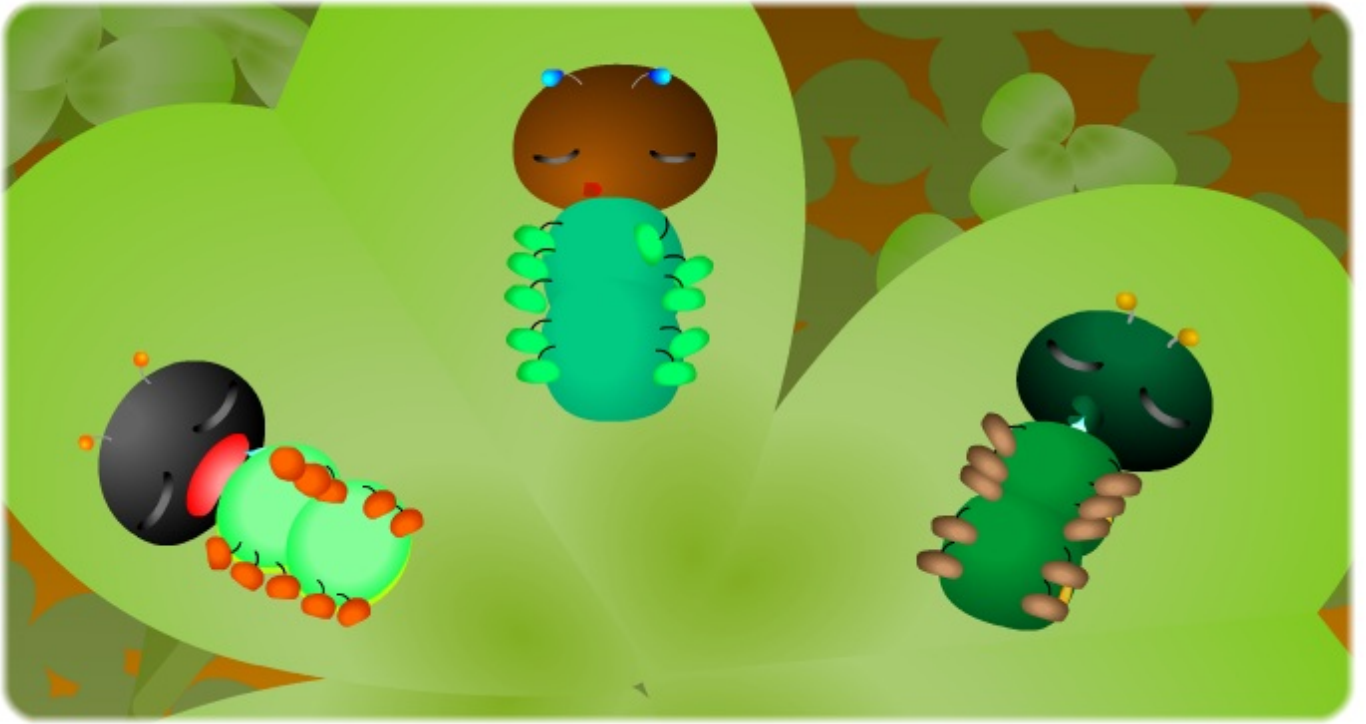
「こっちだよー」

いもむしたちは、毎日 こんな ちょうしで  
あさから ばんまで、 すきなだけ あそんでいました。



おなか が すいたら、

まわりにある はっぱ を すきなだけ 食べられます。



あそびつかれたら、

すきなだけ ねむりました。

毎日、すきなだけ あそんで

すきなだけ 食べて

すきなだけ ねむります。

いもむし たちは

そんな ゆめのような 毎日を すごしていました。



そんな、ある日のことです。

ゴローくんは、はっぱの くきに ついている  
ふしぎなものを みつけました。



「ねー、ねー！カイくん、見て！ 見て！

あれ、何かしってる！？」

「あー、あれはね、ボブくんだよ。

きのうの よる、サナギになったんだ。」





「ぼくたち いもむしは、  
大人になるための じゅんびで サナギになるんだよ。」

「ぼくたちも  
そろそろ 大人になる じゅんびをしなくちゃ！」



「えー！！ やだよー！！」

ぼくは、大人になんか なりたくないよー！！」

「ボクは ずっと、

毎日、ともだちと すきなだけ あそぶんだ！」

おや？

ゴローくんは 大人にはなりたくない ようですよ。



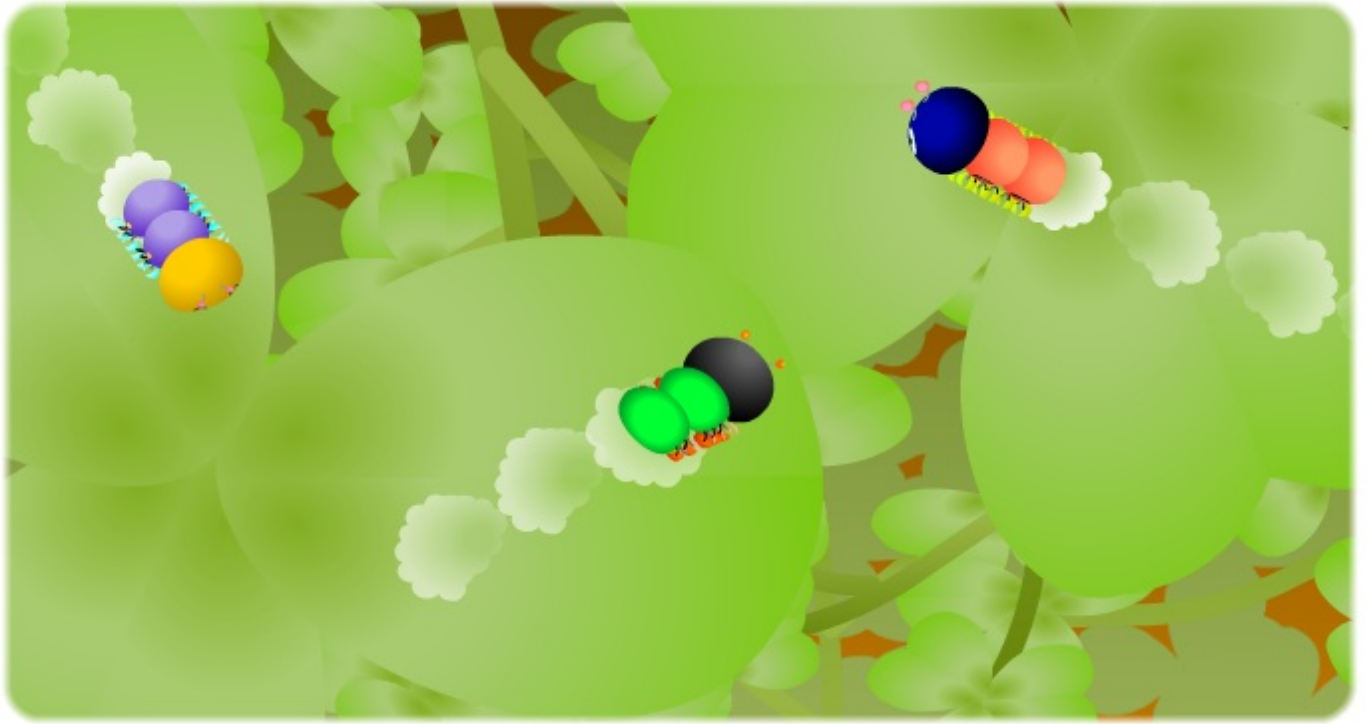
つぎのあさ、 カイクンは、  
ボブくんの となりで サナギになっていました。



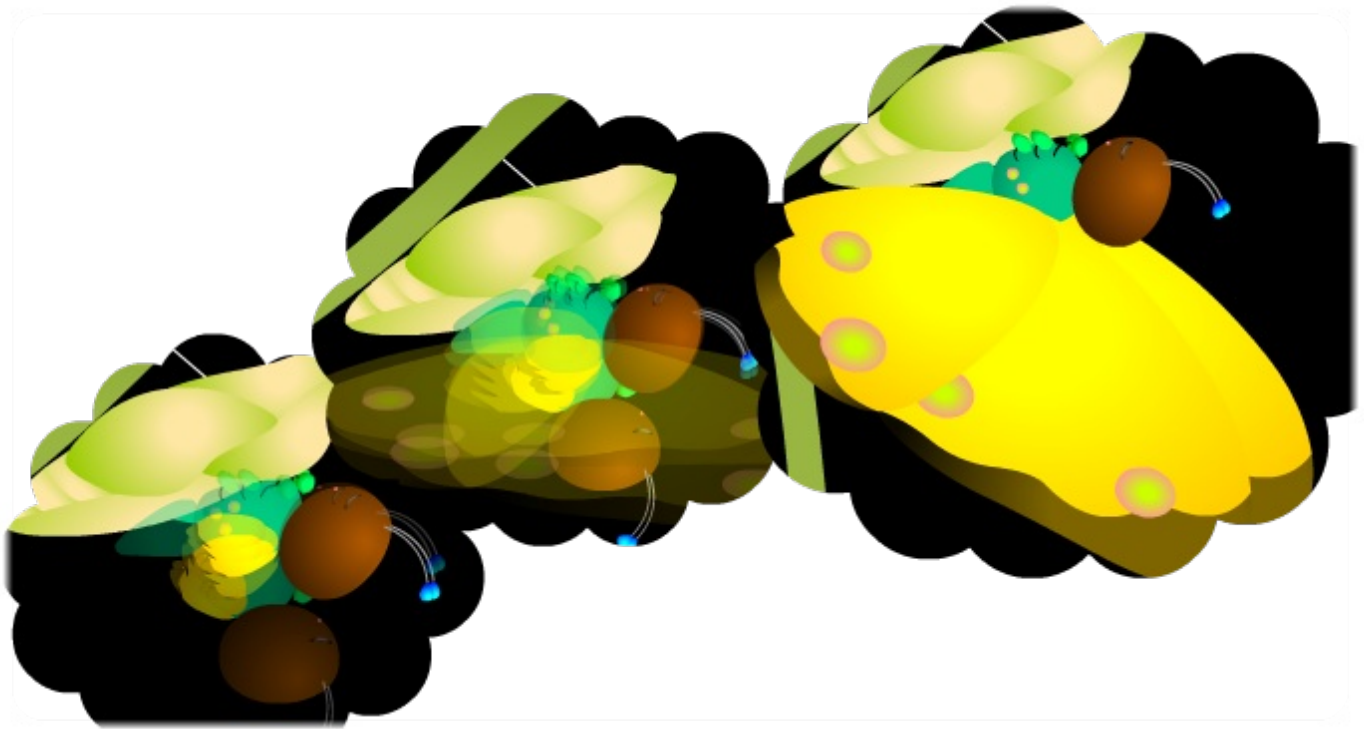
「いいよーだ！

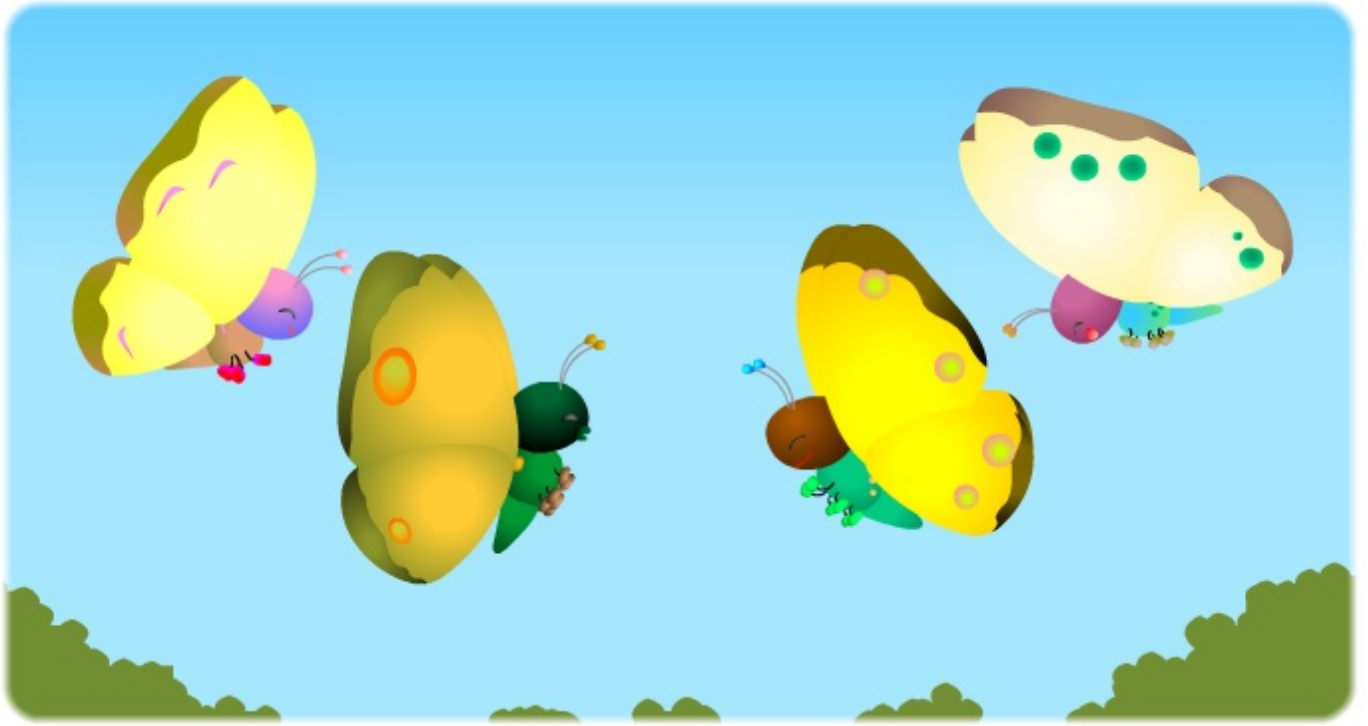
ボクは、ほかの いもむしと あそぶもん！」

「いもむしは いっぱい いるんだからっ！！」



それからも ゴローくんは、とししたの いもむしたちと  
すきなだけ あそんでいました。





それから しばらくして、  
ボブくん と カイクんは ちょうちょになりました。

あたらしい ともだちと いっしょに、  
大空をたのしそうに とびまわっています。



ゴローくんの とししたの いもむしの ともだちも、  
みんなサナギに なってしまいました。

だけど・・・

ゴローくんだけは いもむしの ままです・・・





「そっか・・・」

「みんな、いつかは 大人になるんだな・・・」

「サナギにならなかったのは、  
ボクだけ だったんだ・・・」

「ボクは・・・」

「今からでも、ちょうちょに なれるのかな・・・」



[動く絵本をみる](#)